

# 日语口语法详论

## — 口語法精說

湯澤幸吉郎著

商务印书馆

# 日语口语法详论

## —口語法精說—

著 者

湯澤幸吉郎

译 者

刘振瀛

卞立强 陈耐轩 徐昌华  
顾海根 崔荣林 潘金生

商 务 印 书 馆  
1982年·北京

# 日语口语法详论

——口语法精说——

著者

汤泽幸吉郎

译者

刘振瀛

卞立强 陈耐轩 徐昌华

顾海根 崔荣林 潘金生

---

商务印书馆出版

(北京王府井大街36号)

新华书店北京发行所发行

六〇三厂印刷

统一书号：9017·1164

---

1982年8月第1版 开本 787×1092 1/32

1982年8月 第1次印刷 字数 321千

印数 32,600册 印张 15<sup>8</sup>/4

定价：1.65元

## 译者前言

本书作者汤泽幸吉郎博士是日本现代著名语法学者之一，先后担任早稻田大学教授、上智大学教授等职。著有《国语史概说》《室町时期语言研究》《德川时期语言研究》等，对日本语言断代史的研究有很深的造诣。本书是著者为初学者编写的一部口语语法，内容比较充实，在日本国内博得好评。对我国日语学习者以及从事日语教学人员，也都有很大的参考价值。本书的特点，在于它利用“正文”及“附注”两种形式，分别主次，读者在学完“正文”之后，还可通过“附注”部分，了解日本口语语法中存在的问题及有争议的问题，这将有助于培养学习者独立思考的能力。“附注”部分还介绍了一些非正规的或属于方言性质的说法，帮助读者扩大语言知识。本书的另一个特点是，著者发挥了他的专长，溯本追源，随处指出了一些活用词的历史渊源，这对从事日语教学的人，也是很有裨益的。本书还有一个特点是，它对现代日本口语中主要难点之一的助词、助动词各项用法，搜集周详，引例丰富，特别是其引例保持了日语中主语成分多省略的特点，这虽然给我国读者在理解这些例句上增加一些困难，但从另一方面说，读者一旦娴熟这些例句，自会加深理解纯粹日本口语的能力。

我们在翻译本书的过程中，最感到棘手的也正是在这些例句的日汉对照上。由于日语本身是一种富于情意性的语

言，往往一个助词，或一个助动词，会含有十分委婉曲折的语气，加之，上边已经提到的，这些例句的特点是省略多，形式简短，语言环境不明显，因此如何使汉译能够在汉语表达习惯所容许的范围内，尽量传达出原文的语感，就成为我们在翻译中的一项重点。为此，我们采取了如下的办法：（一）只要汉语的表达能说得通，即使译语多少有些啰嗦，也要尽力传达出原文的细微语感。（二）按日语习惯原文中省略的部分，如汉译不宜省略，则在译文中进行补充，并以“（ ）”号加以明示。（三）同一例句如果有不同译法，则用“〔 〕”号标出另一种译法。以上这些处理方法，尚属尝试，是否得当，希读者提出意见。

本书是由北京大学日语教研室的几个同志合译的，其分担如下：

第一章～第五章	顾海根、崔荣林
第六章	卞立强
第七章	顾海根
第八章～第十一章	徐昌华
第十二章	刘振瀛
第十三章	陈耐轩
附 录	潘金生

全文由刘振瀛进行总校，并作了若干注释。

本译文采用的原文底本为一九五三年日本明治书院版，其中错排之处均一一作了订正。一九七七年该出版社又重印了本书。读者如欲对照原文，可利用新版。

由于我们能力有限，译文不妥之处，恐所难免，敬希广大读者不吝指正。

一九七九年十二月

## 凡例

- 一、本书是为学习国语文法基础知识及口头语中关于文法方面的知识而编写的。著者在执笔过程中尽量想做到使初学者容易入门，并为教学的人提供较完善的参考书。
- 一、本书首先在“正文”中叙述主要语法事项，然后就必要的问题，在“注解部分”加以注释和补充。为了便于读者前后参照，分别给各叙述事项标明了顺序数码，如〔五〕是指正文的第五，〔注五〕是指注解部分的第五。
- 一、读者在读懂语法知识后，为了能够真正将它学到手并学得精熟，最好的办法是就实际的例子自己进行研究、思考。因此本书在许多地方附上了练习题（解答在卷末附录中）。
- 一、附录中还收有用言各种活用所属的词汇、活用词的活用表、附属词的接续表等。希读者随意地加以利用。

昭和二十八年八月

汤泽幸吉郎

# 目 录

## 第一篇 总论

第一章 国语和语法.....	11
〔一〕 语言和文字 .....	11
〔二〕 国语和国字 .....	12
〔三〕 文言和口语 .....	12
〔四〕 方言和标准语 .....	14
〔五〕 语法和文典 .....	14
〔六〕 语法和正字法(假名遣).....	15
第二章 句、句节、单词(词).....	16
〔七〕 句 .....	16
〔八〕 句节 .....	17
〔九〕 单词(词) .....	19
〔一〇〕 句、句节、单词的关系.....	20
〔一一〕 词的构成 .....	20
○练习题 一.....	23
第三章 词的分类 .....	24
〔一二〕 品词.....	24
〔一三〕 实体词和附属词 .....	24
〔一四〕 实体词、附属词和句节 .....	27
〔一五〕 活用词和无活用词 .....	27
〔一六〕 句节担负的职能和实体词的种类 .....	28

(A) 谓语与动词、形容词、形容动词	(B) 主语与名词	(C)
连体修饰语与连体词	连用修饰语与副词	接续语
与接续词	(F) 独立词和感叹词	29
〔一七〕 附属词的种类		39
(A) 助动词	(B) 助词	39
〔一八〕 各品词的特征		42
○练习题 二		42

## 第二篇 品词各论

第四章 名词(体言)	44			
〔一九〕 名词的特征	44			
〔二〇〕 特殊的名词	44			
〔二一〕 名词的分类	45			
(A) 旧式分类下的名词	(B) 数词	(C) 代词	(D)	
旧分类法中名词同数词、代词之间的差别				46
第五章 动词	52			
第一节 动词的活用	52			
〔二二〕 动词的特征	52			
〔二三〕 动词的活用、词干和活用词尾	53			
〔二四〕 动词的活用形	54			
第二节 动词活用的种类	57			
〔二五〕 活用的种类	57			
〔二六〕 五段活用	57			
〔二七〕 上一段活用	60			
〔二八〕 下一段活用	64			
〔二九〕 カ行变格活用(カ变)	69			
〔三〇〕 サ行变格活用(サ变)	70			
〔三一〕 名词和汉语词等改为动词的方法	72			

〔三二〕 ラ行变格活用(ラ变).....	77
第三节 特殊的连用形(音便形)及动词的自、他 .....	80
〔三三〕 音便形.....	80
〔三四〕 音便形的种类 .....	81
〔三五〕 自动词与他动词 .....	85
〔三六〕 动词的自、他与活用 .....	86
第四节 各活用形的用法 .....	89
〔三七〕 活用形.....	89
〔三八〕 未然形.....	89
〔三九〕 连用形.....	90
〔四〇〕 终止形.....	93
〔四一〕 连体形.....	94
〔四二〕 假定形.....	97
〔四三〕 命令形.....	97
〔四四〕 推量形和音便形 .....	98
○练习题 三 .....	100
第六章 形容词 .....	101
第一节 形容词的活用 .....	101
〔四五〕 形容词的特征 .....	101
〔四六〕 形容词的活用 .....	101
〔四七〕 形容词的活用形 .....	101
〔四八〕 活用的形式 .....	103
第二节 各活用形的用法 .....	104
〔四九〕 连用形.....	104
〔五〇〕 终止形.....	107
〔五一〕 连体形.....	108
〔五二〕 假定形.....	110

〔五三〕 推量形	110
第三节 形容词的音便形及否定意义的“ない”	112
〔五四〕 形容词的音便形	112
〔五五〕 形容词否定意义的“ない”	115
第七章 形容动词	118
第一节 形容动词的活用	118
〔五六〕 形容动词的特征	118
〔五七〕 形容动词的活用	118
〔五八〕 形容动词的活用形	118
〔五九〕 活用的形式	120
第二节 各活用形的用法	122
〔六〇〕 连用形	122
〔六一〕 终止形	125
〔六二〕 连体形	126
〔六三〕 假定形	128
〔六四〕 推量形	130
第三节 郑重的形容动词及活用不完备的形容动词	131
〔六五〕 郑重的形容动词	131
〔六六〕 活用不完备的形容动词	134
○练习题 四	137
第八章 连体词	138
〔六七〕 连体词的特征	138
〔六八〕 属于连体词的词语	139
〔六九〕 连体词所连体的词语	142
第九章 副词	143
〔七〇〕 副词的特征	143

〔七一〕 副词的种类 .....	143
〔七二〕 情态副词 .....	143
〔七三〕 程度副词 .....	145
〔七四〕 叙述副词 .....	147
〔七五〕 副词的形态 .....	150
〔七六〕 副词与名词、形容词 .....	152
<b>第十章 接续词 .....</b>	<b>153</b>
〔七七〕 接续词的特征 .....	153
〔七八〕 接续的用法 .....	153
〔七九〕 接续词词义上的分类 .....	156
〔八〇〕 与接续词相似的词语 .....	157
<b>第十一章 感叹词 .....</b>	<b>160</b>
〔八一〕 感叹词的特征 .....	160
〔八二〕 感叹词的用法 .....	160
〔八三〕 感叹词与助词 .....	162
○练习题 五 .....	163
<b>第十二章 助动词 .....</b>	<b>164</b>
〔八四〕 助动词的特征 .....	164
〔八五〕 从词义上看助动词 .....	164
〔八六〕 被动助动词“れる”“られる” .....	165
〔八七〕 可能助动词“れる”“られる” .....	169
〔八八〕 表示自发的意思的助动词“れる”“られる” .....	171
〔八九〕 使役助动词“せる”“させる”附：“しめる” .....	174
〔九〇〕 否定助动词“ない”“ぬ(ん)” .....	181
〔九一〕 过去助动词“た(だ)” .....	188
〔九二〕 推量助动词 .....	197
〔九三〕 (A)らしい .....	197

〔九四〕 (B)“う”“よう”和“まい” .....	303
〔九五〕 希望助动词“たい”“たがる” .....	212
〔九六〕 敬谦助动词“れる”“られる”“せられる”“させられる” “ます”.....	218
〔九七〕 指定助动词“だ”“です” .....	225
〔九八〕 比况助动词“ようだ”“ようです”“みたいだ” “みたいです” .....	239
〔九九〕 传达助动词“そうだ”“そうです” .....	248
〔一〇〇〕 样态助动词“そうだ”“そうです”附 “たそうだ”“たそうです”“なそうだ” .....	251
“なそうです” .....	
〔一〇一〕 助动词的分类 .....	261
○练习题 六 .....	266
<b>第十三章 助词 .....</b>	<b>267</b>
第一节 总说 .....	267
〔一〇二〕 助词的特征 .....	267
〔一〇三〕 助词的分类 .....	267
第二节 格助词 .....	268
〔一〇四〕 格助词的性质及其所属词 .....	268
〔一〇五〕 “が”.....	269
〔一〇六〕 “の”.....	272
〔一〇七〕 “に”.....	280
〔一〇八〕 “へ”.....	284
〔一〇九〕 “を”.....	285
〔一一〇〕 “と”.....	287
〔一一一〕 “より”“よりか” .....	290
〔一一二〕 “から” .....	294

[一一三] “で” .....	298
第三节 接续助词 .....	301
[一一四] 接续助词的性质及其主要所属词 .....	301
[一一五] “ば”“と” .....	301
[一一六] “ても”“も”附“とも”“と” .....	307
[一一七] “けれども”“けれど”和“が” .....	313
[一一八] “のに”“に” .....	315
[一一九] “から”“ので”附“からは”“からには” .....	317
[一二〇] “て(で)” .....	319
[一二一] “し” .....	323
[一二二] “ながら”附“つつ” .....	325
[一二三] “たり(だり)” .....	327
[一二四] “もの(を)”“ものの”“ものなら”“ものだから” “のですから” .....	330
[一二五] “たところが”“たところで” .....	334
[一二六] “たって(だって)”“て” .....	336
[一二七] “ては(では)”和“は” .....	340
[一二八] “ないで”和“ぬ(ん)で” .....	346
第四节 副助词 .....	350
[一二九] 副助词的性质及其主要所属词 .....	350
[一三〇] “は” .....	350
[一三一] “も” .....	353
[一三二] “こそ” .....	356
[一三三] “さえ”附“すら” .....	357
[一三四] “でも” .....	359
[一三五] “だって”“だっても” .....	362
[一三六] “しか”“ほか” .....	363

〔一三七〕 “なり”“なりとも”“なりと”“など” .....	365
〔一三八〕 “なり”.....	367
〔一三九〕 “まで”.....	369
〔一四〇〕 “ばかり”附“のみ” .....	371
〔一四一〕 “だけ”.....	374
〔一四二〕 “きり”“ぎり” .....	376
〔一四三〕 “ほど”.....	378
〔一四四〕 “ぐらい”“くらい” .....	379
〔一四五〕 “など”附“なんぞ”“なぞ”“なんか” .....	383
〔一四六〕 “ずつ”.....	386
〔一四七〕 “どころ”“どころか” .....	387
〔一四八〕 “やら”.....	388
〔一四九〕 “か”.....	391
〔一五〇〕 “や”.....	394
〔一五一〕 “の”附“だの” .....	397
〔一五二〕 “ぞ”和“がな” .....	401
〔一五三〕 其他副助词 .....	403
(A)“して”    (B)“として”    (C)“ぐるみ”和“ごと” .....	403
第五节 终助词 .....	405
〔一五四〕 终助词的性质及其主要所属词 .....	405
〔一五五〕 “か”.....	405
〔一五六〕 “な”(禁止) .....	408
〔一五七〕 “な”(命令) .....	409
〔一五八〕 “てよ”.....	410
〔一五九〕 “ぞ”“せ” .....	411
〔一六〇〕 “ものか”(もんか).....	411
〔一六一〕 “かしらん”“かしら”.....	412

[一六二] “の”	414			
[一六三] “だ”“です”“だね”“ですね”	415			
[一六四] “け”和“がし”	416			
[一六五] 其他终助词	417			
(A)“え”“い”	(B)“さ”	(C)“て”	(D)“とも”	
(E)“な”“なあ”	(F)“ね”“ねえ”	(G)“や”		
(H)“よ”	(I)“わ”“わい”			417
○练习题 七				424
[一六六] 助词的详细分类				425
附 录				
第一 索引(甲)				430
索引(乙)				437
第二 练习问题答案				441
第三 主要动词				452
第四 主要形容词				474
第五 主要形容动词				477
第六 五十音图和浊音半浊音表				480
第七 形容词活用表				481
第八 形容动词活用表				481
第九 动词活用表				482
第十 助动词活用表				485
第十一 助动词接续表				488
第十二 助词接续表				489
本书语法术语译文原文对照表				491



# 第一篇 总论

## 第一章 国语和语法

### 〔一〕 语言和文字

我们在日常生活中，想要对别人表达自己的想法、感觉（即“思想”“感情”），可以借助脸部表情、动作、信号、绘画、雕刻等各种手段。但通常是靠声音来传达。这种用来表达思想、感情的声音，是被社会固定下来的。我们把这样的声音称之为“语言”或“话儿”。

其次，如上面所指出的那样，语言是靠声音传出，从而通过耳朵来了解的。但是，也有把它转化成一定的符号，借助眼睛来了解的。我们把这种符号形式称作“文字”或“字”。

〔注一〕 如上所述，语言是由音、义两个要素结合而成的。不过，除此以外还必须具有社会性，否则就不是这里所说的语言。也就是说，既然它是语言，就必须为社会所广泛使用。例如，在甲和乙两人之间，事先约好，采用别人不通用的声音手段来相互表达、相互了解彼此的思想、感情，尽管这也是一种语言，但这并不是我们所要研究的语言。因为它不具备社会普遍性。

其次，这里所说的“语言”或“话”是十分广义的。就是说，凡是表示一个概念（如“桜/樱花”“美しい/美丽的”“咲く/(花)开”等），或者表示统一的概念群（如“桜が美しく咲く/樱花开得美丽”等），或者表示概念